

丈夫がいいね

316

第7部 子ども健康学

夏休みの、子どもの大きな薬しみの一つに「お泊まり」がある。キャンプや合宿、親類の家…。多くがその日を指折り数えて待つ一方で、憂うつで仕方ない子もいるという。おねしょをする子である。

全体の20%弱

おねしょに悩む子や親は少なくない。「日本夜尿症学会」が治療ガイドラインを作っているほどだ。金沢医療センター(金沢市)の太田和秀小児科医長によると、小学校に入る時に児童全体の20%弱はおね

おねしょ

怒らずに訓練や薬で解消

しよをする。

子どものおねしょは、膀胱が少し小さい▽膀胱の出口の筋肉の働きが十分でない▽夜間の尿量を減らす

治らないこともある。治りにくい場合はどうするか。まず膀胱容量や夜間尿量などを測定し、どの部分か未熟なのかを見極め

る。太田医長は「その子のは、寝る前の二、三時間はタイプによつて対策が違ふ。おねしょを科学的な目で見てほしい」と話す。おねしょをする子も、膀胱が小さいのなら、医師の指導のもと、排尿を少し我慢する方法がある。これによつて膀胱の容量が増える。この訓練は週一回、休日に行う程度でいい。膀胱の大きさが十分で、起きてトイレに行くようになるなどの効果が出る。こうした生活習慣の改善もおねしょ解消を目指すの

重症で治り悪く

おねしょが続けば、親は怒りたくもなる。しかし、子どもはしたくしてしているわけではない。原因は膀胱などの未発達である。親が叱れば子はプレッシャーを感じ、治りは悪くなる。

ホルモンの働きがやや弱いなど、ちよつとした身体未熟さが重なった結果である。尿路などに疾患があることはまれで、基本的に成長とともに解消するが、なかなか

が基本だが、効果的な治療もある。膀胱が小さい子の場合、膀胱弛緩薬が有効だ。睡眠中の尿量が多い場合、夜間尿量を減らすホルモンエールを送る。



おねしょをする子どもを怒っても逆効果。焦らずに生活習慣の改善に取り組みたい